

果樹



8月・9月の柑橘園管理



果樹

鶴浜 研二
上島営農指導センター
080-1771-4257

1. 病害虫防除

品 種	防除時期	対象病害虫	農薬名	希釈倍数	備考	収穫前使用可能日数
温州	8月上旬	黒点病	ジマンダイセン水和剤	400倍		30日前まで
	8月中旬～下旬	チャノキイロ、アザミウマ ミカンサビダニ	コテツフロアブル	4,000倍		前日まで
	9月中旬	黒点病	ジマンダイセン水和剤	400倍		30日前まで
	極早生	黒点病	ナティーボフロアブル	1,500倍		前日まで
中晩柑	8月中旬～下旬	チャノキイロ アザミウマ ミカンサビダニ	コテツフロアブル	4,000倍	混用 散布	前日まで
		黒点病	ジマンダイセン水和剤	600倍		90日前まで
	9月中旬	黒点病	ジマンダイセン水和剤	600倍	90日前まで	
河内晩柑 パール柑	8月中旬～下旬	黒点病 炭疽病(さび果)	オキシンドー水和剤 80	800倍		30日前まで
ポンカン パール柑等	9月中旬	黒点病	ナティーボフロアブル	1,500倍	年内収穫 品種	前日まで
共通	7月中旬～ 9月中旬	ミカンハダニ、サビダニ	パロックフロアブル	2,000倍		温州：14日前 その他：前日まで
		ミカンハダニ	ダニオーテフロアブル	3,000倍		前日まで
		ミカンハダニ、ホコリダニ	スターマイトフロアブル	2,000倍		7日前まで
	発生時	カメムシ	スターグル顆粒水溶剤 MR. ジョーカー水和剤	2,000倍 2,000倍		前日まで 14日前まで

2. 施 肥 ○通常タイプ

対象品種	肥料名	施肥時期	10a当たり
清見・甘夏・ 河内晩柑・パール柑	ニュー熊本果樹2号	9月上旬	4袋
デコボン	ニュー熊本果樹3号	9月上旬	4袋

3. 葉面散布

目的	薬 剤 名	希釈 倍数	備 考
果皮強化対策	ジューシーカル 又は バイカルティ	1,000倍	温州・デコボン等

花卉



スリップス (アザミウマ) について



花 卉

竹川慶剛
上島営農指導センター
080-1729-1637

今回は花き類で高温乾燥時に多発するスリップス (ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ) について紹介します。

ミカンキイロアザミウマ(主に花・蕾に寄生)

虫は体長1.0～1.7mm。黄色黒褐色。

ミナミキイロアザミウマ(主に葉に寄生)

成虫は体長1.3mm前後、全体が黄色で羽の合わせ目が黒く筋状に見える。

・生理生態

卵～成虫までの期間は10～20日

成虫の寿命は30～40日

成虫の1匹の雌は150～300個を産卵し、1ヶ月後に300倍に増殖します。

蛹の時期が近づくと地表へ移動し、土中で蛹になります。

休眠しないので、施設内では冬でも発生します。

施設では2月下旬から増加し始め、5～6月に最も活発に活動し、初夏～初秋に大量に増加します。

成虫の飛翔能力は低く、自力で5m程度しか移動できません。

・被害の特徴

・新葉、新芽でひっかき傷に似た症状や茎の曲がりや葉の奇形が見られます。芽の中に潜り込んでいるため、発見が難しくなります。

- ・展開葉に寄生した場合、加害部が白く光ったように見え、周辺に小さく茶～黄色の虫が見られます。
- ・蕾に侵入した場合、特に色の濃い品種ではカスリ状の症状が現れます。

・防除対策
耕種的防除

- ・施設内では、作付前に除草を行い、ハウスは閉め切り、次の作付けまで20日以上あけ、成虫を餓死させます。
- ・本種の発生した施設では土壌消毒を行い、蛹または成虫を死滅させます。
- ・株や苗で持ち込まれる場合が最も多く、株や苗を購入する場合は本種が寄生しているかどうか確認します。
- ・黄色、青色の粘着トラップで発生の有無を観察して、発生動向に十分注意する。
- ・木酢液を噴霧することで、スリップスを忌避する効果があります。
- ・砂糖を200倍～500倍に希釈し、有機リン剤を溶かして噴霧すると、新芽や蕾から這いだし、舐めて死滅します。

薬剤防除

・薬剤防除については、スリップスの種類や薬害等がありますのでお近くの営農センターまでお問い合わせ下さい。

野菜



露地スナップ栽培



野菜

坂田 沙貴
上島営農指導センター
080-1759-0091

1. 作型

月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地		○ ○	—	□ □ □ □ □ □ □ □		
		播種		収穫		

2. 圃場準備 (kg/10a当たり)

	N	P	K
基肥	20~25	30~35	20~25
追肥	3	3	3
合計	15	20	15

3. 播種

播種例 畝幅 120~135cm
株間 10cmの1粒、2粒交互に播種し、MKK等で覆土をします。

※降雨直前や、直後には播種は避けます。地温が高すぎると立枯れを起こすため注意しましょう。

地温を下げるマルチ資材

ミラーマルチ、白黒マルチ、敷き藁など。

4. 灌水

生育初期は灌水を控え、強い根張りを促します。灌水チューブを使用する場合は株元を乾燥させるため、生育するにつれ株元から徐々に離していきます。収穫が始まると灌水量を増やしていきます。

5. 整枝・摘花

採光、病虫害防除、樹作りの為10節ぐらいまでの側枝、花を摘み取ります。主枝1本仕立が基本となります。倒伏防止、品質・収量アップの為に必ずネットを張って誘引します。

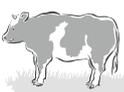
6. 収穫

莢の膨らみ7分が適期となります。収穫が遅れないようにしましょう。

7. その他

- ・樹、莢が凍るため霜には注意してください。
- ・病虫害はうどんこ病、灰色カビ病、ヨトウムシ、タバコガ、ハモグリバエに注意しましょう。
- ・目標草勢 花はダブルで大きいもの。莖は鉛筆より太く、葉は肉厚、丸葉で3対葉。芯は大きく横向きのもの。

畜産



牛 EBL (牛伝染性リンパ腫) について



畜産

井上 正一
繁殖牛供給センター
080-1729-1626

天草管内においては、EBLの清浄化に向けて取り組んでおります。みなさん内容についてはご存じだと思いますが、もう一度EBLについて今回お伝えしたいと思います。

EBLはウイルスの感染により起こる牛の伝染性疾病です。感染しても多くは無症状ですが、20~30%の感染牛が持続性リンパ球増多症を引き起こし、さらに感染牛の2~3%が数カ月~数年後に地方病性型牛伝染性リンパ腫を発症します。好発年齢は3歳以上(4~8歳)とされておりますが、近年3歳未満での発症も少なくありません。発症牛に対する治療法はありませんので、感染をさせないための対策が必要です。

牛EBLの感染経路

- 垂直感染**
- ①胎盤(子宮内)感染: 発症牛の場合、30~40%で胎盤感染が確認されています。
 - ②産道感染: 出血を伴う出産時に感染リスクが高まると考えられ、感染牛の約8%で産道感染が認められている報告もあります。
 - ③乳汁感染
- 水平感染**
- ①吸血昆虫による伝搬: 感染牛を吸血した昆虫(アブ・サシバエ)の口器にウイルスを含む血液が付着したまま、次の牛へ吸血することによって感染します。
 - ②医原性感染: 注射針や直検手袋の使い回しにより感染が成立します。また、出血を伴う除角、削蹄、去勢、耳標等の装着など使用する器具によっても感染します。
 - ③接触感染

同居生間での感染(水平感染)対策について

- ①感染牛群と非感染牛群の分離飼育
両群の間隔を4~6m以上設けましょう。又は牛群間に空房を設置したり、距離を保てない場合には高さ2m以上の板やネット等の障害物を設置しましょう。(吸血昆虫による感染は、感染牛から吸血後、飛翔中に口器の血液が乾燥すると感染は成立しないとされています)
- ②吸血昆虫(アブ・サシバエ)対策
薬剤散布やアブトラップ設置等の駆除により、吸血昆虫の数を減らしましょう。また、感染牛への忌避剤散布や塗布を行った感染牛群と非感染牛群の間にネット(網目の目安アブ1cm、サシバエ2mm)を設置しましょう。高さが2m以上あると効果的です。
- ③人為的感染の防止
注射針や直検手袋は1頭ごとに交換しましょう。また、耳標・鼻環の装着、除角、去勢など出血を伴う作業に使用した器具は、1頭ごとに水洗・逆性石けん液等で洗浄・消毒を行いましょう。

外部導入の対策

- ・牛伝染性リンパ腫ウイルス遺伝子が検出されるまでに感染から約1ヶ月間、抗体が検出されるまでに約2ヶ月間かかります。したがって非感染牛を導入した場合でも、導入後は検査するまで隔離飼育を行い、検査結果をもとに対策を実施しましょう。
- ※EBLは発症すると経済的損失が大きくなりますので、上記の事を念頭においてEBL対策に取り組まれて下さい。

子牛セリ市開催

7月17日に天草家畜市場で子牛セリ市が開催されました。子牛のセリ市は奇数月の17日に開催されています。

JAあまくさ管内からは162頭(全体で313頭)の子牛がセリにかけられ、平均価格は567千円(全体平均は567千円)となり、前回5月のセリと比較すると79千円(全体では92千円)下回る成績となりました。